

平成29年7月14日
中部地方整備局

中部管内の優秀な研究成果を表彰しました

○本年度の中部地方整備局管内事業研究発表会において、5部門90題の発表が行われ、受賞者一覧のとおり優秀な18題を表彰しました。

○本発表会は、平成29年7月6日（木）・7日（金）の2日間にわたって開催され、636名の参加がありました。

1. 概要

中部地方整備局では、個々のさらなる能力開発・勤務意欲の向上に寄与し、組織全体の活性化を図り、もって国土交通行政の効率的な執行を推進するため、管内事業研究発表会を毎年開催しています。

イノベーション部門、アカウンタビリティ部門、一般部門、業務改善・効率化部門及びポスターセッション部門の5部門において、発表論文を審査し優秀なものについて表彰しました。

2. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、名古屋港記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ、飯田市記者クラブ、駒ヶ根市記者クラブ、伊那市記者クラブ、塩尻桔梗ヶ原記者クラブ、木曾合同庁舎記者室、港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス、マリタイムデーリーニュース

3. 問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局

(名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館)

企画部 技術管理課長 加藤 豊 TEL : 052-953-8131

平成29年度中部地方整備局管内事業研究発表会 受賞者一覧

■イノベーション部門

賞	論文名	所属	氏名
最優秀賞	超軟弱地盤盛土への挑戦！ ～養老IC 30万m3の盛土を経験して～	岐阜国道事務所 工務課	長谷川 哲也
優秀賞	桶狭間勅使線の愛知用水アンダーパス工事	名古屋市緑政土木局 昭和土木事務所	勝山 滋郎
優秀賞	静岡県におけるi-Construction前夜の取組 ～この工事がきっかけで静岡の動きは加速した～	静岡県交通基盤部河川砂 防局河川海岸整備課	長谷川 雄一
優秀賞	東北以外で初！駿河海岸 粘り強い構造の海岸堤防の整備に向けた取組	静岡河川事務所 海岸課	吉永 匡宏

■アカウントビリティ部門

賞	論文名	所属	氏名
最優秀賞	激特事業で行った多自然川づくりの評価について ～アユと魚類の生息環境に配慮した河道復元の取り組み～	天竜川上流河川事務所 調査課	久保田 光
優秀賞	トンネル掘削土から発生する自然由来重金属等のリスク評価および 対策の検討～施工現場での迅速な対応に向けて～	飯田国道事務所 工務課	菊地 浩貴
優秀賞	タイムラインの運用とPDCA	庄内川河川事務所 調査課	中本 有朋
優秀賞	ビッグデータの活用による道路を賢く使う取り組み ～大規模イベント時の円滑な観客輸送に向けた利用実態等の効果 的・効率的な把握～	道路部 計画調整課	古田 大樹

■一般部門（安全・安心、活力）

賞	論文名	所属	氏名
最優秀賞	堤防決壊時における排水対応マニュアルの作成	庄内川河川事務所 工務課	亀谷 国大
優秀賞	道路損傷復旧費の未納債権に対する滞納処分について	三重河川国道事務所 経理課	勝木 直子
優秀賞	生活道路の交通安全対策に関する名古屋国道事務所の取り組み ～小牧IC交差点の緊急安全対策～	名古屋国道事務所 交通対策課	近江 朋弘
優秀賞	橋梁メンテナンスサイクルを回すための取組 ～点検効率化・経過観察及び簡易修繕業務～	静岡市建設局道路部 道路保全課	戸田 匡人

■業務改善・効率化部門

賞	論文名	所属	氏名
最優秀賞	職員向けETC2.0データ活用の普及に関する取組について	道路部 交通対策課	林 誠之
優秀賞	砂防指定地進達業務の効率化について	天竜川上流河川事務所 砂防調査課	中島 寛明
優秀賞	オープンカウンタ方式導入に向けた取組	多治見砂防国道事務所 瑞浪国道維持出張所	中田 尚子
優秀賞	実験センター見学者1,000人の安心のために ～避難誘導手引き策定の取組～	名古屋港湾空港技術調査 事務所総務課	山本 紀彦

■ポスターセッション部門

賞	論文名	所属	氏名
最優秀賞	中部地整管内における水防災意識社会再構築ビジョンの取り組み	河川部 河川計画課	坂井 文也
優秀賞	宮川堤(土木遺産)の改修工事	三重河川国道事務所 工務第一課	土井 万莉子

平成29年度 中部地方整備局管内事業研究発表会 《 開催ダイジェスト 》

■開会式



塚原中部地方整備局長

塚原局長より、

『事業研究発表会は、中部地方整備局発足の翌年(昭和24年)から毎年開催されている伝統ある発表会。この発表会で、様々な取り組みを共有し、技術力・専門力を磨き地域に貢献することが重要。発表者は気負うことなく発表し、聴講者もしっかり聞いて業務に生かして欲しい。』

と挨拶されました。

■発表会

本年度、新たにCPD認定プログラムとして登録し、一般参加者は263名、中部地方整備局職員等を含み全体で636名の参加者があり、平成28年度の約1.8倍の参加がありました。

全90題の発表は、河川38、道路26、事務17、港湾5、電気・機械・営繕4から成り、各分野における生産性向上、メンテナンス、業務改善に関する発表が多く見られました。



■ 特別講演



沢田和秀 氏
岐阜大学工学部附属社会基盤工学科教授
インフラマネジメント技術研究センター長

『インフラのメンテナンスを考える』をテーマに、岐阜大学教授の沢田和秀氏にご講演いただきました。

沢田和秀氏は、「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成」にご尽力されており、この経験を踏まえたご講演は、約180席の聴講席が満席となり盛況でした。



■ 表彰式

発表論文を審査し、90題のうち約2割にあたる18題を表彰しました。

受賞者一人一人に対し、塚原局長より表彰状が授与されました。

